



Topics
1

次期教育大綱・次期教育振興基本計画策定に向けた関係者や当事者の方との対話

現在、次期教育等の振興に関する施策の大綱・次期高知県教育振興基本計画（期間：令和6～9年度）の策定にあたり、内容の実効性等を高めるため、様々な関係者や当事者の方からご意見をいただく取組を実施しています。各関係者や当事者の方からは、次期教育大綱・次期教育振興基本計画の策定のコンセプトの一つである、「目的・目標と手段・手法を混同させない」という考えから、まずは、「**理想的な学校・教育の姿とは何か**」という目的・目標をどこに置かかについてご意見をいただいています。

今回は、「対話」を実施した関係者や当事者の方の主なご意見を一部紹介させていただきます。なお、さらに詳しい「対話」の内容は、会議資料として県教育政策課のホームページ（「第2回高知県教育振興基本計画推進会議」資料4）等でも公開していますので、ぜひご覧ください。

＜「対話」を実施した（実施予定）の関係者・当事者＞

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ✓ 高等学校・特別支援学校高等部に通っている生徒などの若者 ✓ 若年・中堅の教職員 ✓ 教職を目指す大学生【今後実施予定】 ✓ 市町村教育長 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 就学前教育・保育関係者 ✓ 小中学校、県立学校の校長 ✓ PTA関係者 ✓ 社会教育委員 |
|---|---|



▶ 高等学校・特別支援学校高等部に通っている生徒などの若者

県内の高校・特別支援学校高等部の生徒5名からなる「次世代総合教育会議」を開催し、ご意見をお伺い、知事・教育長・教育委員と意見交換を行いました。また、県内の高校・特別支援学校高等部の生徒や16歳から18歳までの若者の、教育や学校についての「声」を募集しました。

●次世代総合教育会議（令和5年7月31日開催）における各委員の主なご意見の概要



高知小津高等学校
嶋本 遙 委員

- ・フィールドワーク等を通じて、学校という枠を超えて、地域や他校とつながることが必要。
- ・個性を伸ばすことで自信を持って自己主張ができる。そのような環境を作るためにも、友達とはコミュニケーションを通じて信頼関係を築くことが必要。
- ・コミュニケーションが社会に通用する力として必要。コミュニケーション能力は、自分たちで話し合い、考える授業によって高まることにつながる。すでに答えのある問いではなく、自分自身が思う答えを探す授業が大切。



高知工業高等学校
藤村 陽輝 委員

- ・2つの点からの「型にとられない柔軟な学校」が必要。
- ・1つ目は「柔軟な学びができる学校」。一人一人がやりたい自分や目標をもとに、必要な勉強を自分で選択でき、実践的に学べるようにすべき。
- ・2つ目は「生徒の声を柔軟に取り入れる学校」。今の学校は、意見を出しても聞き流されてしまう。生徒から出た意見をどう取り入れていくかを、生徒と先生が時間をかけて話し合う機会を設けるべき。



高知ろう学校
若田 桃未 委員

- ・理想とする学校は、「自分たちができる社会貢献を自分たち自身で考え、実施できる学校」「地域との交流を積極的に行い、学び合える学校」「自分たちが考えた取組を自分たちで発信できる学校」
- ・その実践の例として、例えば、高知ろう学校では、学校給食の食品ロスに着目し、生徒たち自身で検討した対策を実施したり、地域の子ども食堂と交流・連携して対策を進めていこうとする活動に取り組んだりしている。



清水高等学校
扇喜 賢児 委員

- ・座学中心の受け身の学習スタイルから、逆転授業やグループワークなどの生徒の活動を多く取り入れたスタイルが理想的な学校の姿。
- ・高知県ならではの自然を生かしたフィールドワークを増やしたり、別の高校との合同学習を行ったりすべき。
- ・自分の興味のある分野に主体的に取り組み、その活動の成果を報告・発表することで、その活動が認められ、共感する。そのことによって自信や学ぶ意欲を向上させることができるというサイクルをまわしていく必要がある。



土佐高等学校
金子 明弘 委員

- ・自分の受けたい授業や、自分に合った授業を受けられるようにするために、朝や放課後の時間を使って授業選択の幅を広げたり、科目ごとに飛び級ができたりするような仕組みがあればよい。
- ・部活動に所属している人は、自分の実力を確かめたり、他校の人と交流して自分の力を発揮したりすることができると思う。それと同じような場が、勉強が得意な人にもあるべきで、数学や理科などの大会をより高頻度で開催してほしい。



「次世代総合教育会議」については、高知県教育委員会事務局 YouTube チャンネル「とさまなチャンネル」でも紹介していますので、ぜひご覧ください。

次世代総合
教育会議



「次世代総合教育会議」における知事の発言より

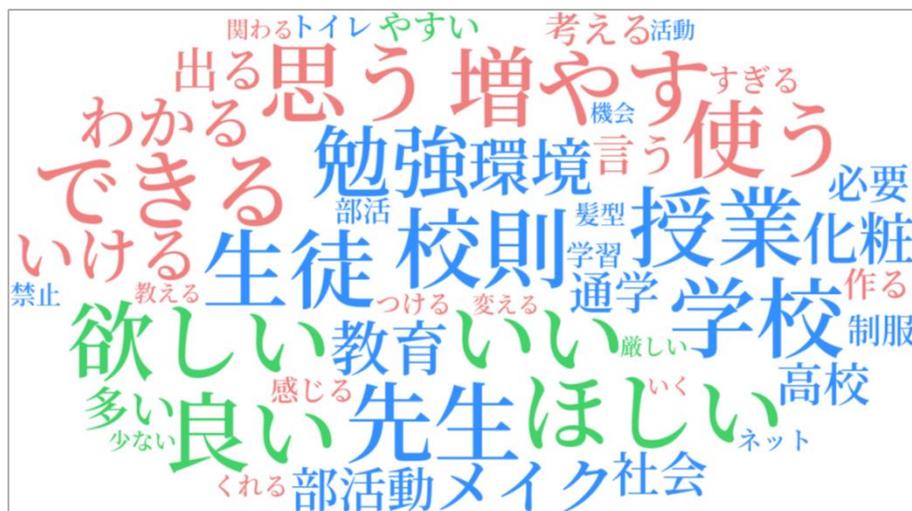
- 今後の方向性として高校生の委員の皆さんからご示唆いただいた以下の4点について、しっかりと受け止めて次の教育大綱に反映をさせていきたい。
 - ①授業は座学中心ではなくて、自分たちで話し合い考え合う、主体性を高める授業が望ましい。
 - ②フィールドワークや他の学校との交流を広めていくべきである。
 - ③地域や社会の課題にどう向き合うか、探究していくことが大事である。
 - ④デジタル化や学びたい科目を選択できる環境など、学校の環境整備は我々もしっかり対応する。
- こうした形で話し合いの場が持てたことは大変貴重だし、うれしいひと時であった。今後も対話を続けていきたいと思う。

▶高知県の教育・学校についての若者の「声」

高知県内の高等学校・特別支援学校高等部に在学している生徒や、高知県内に在住している16歳から18歳までの若者の皆さんから、令和5年5月～6月にかけて、教育や学校についての「声」を **301件** いただきました。

いただいた「声」をテキストマイニング(※)で分析してみました。

(※) テキストマイニング：多くの文章から、例えば、それぞれの単語等の出現頻度や相関関係などを集計・分析する方法



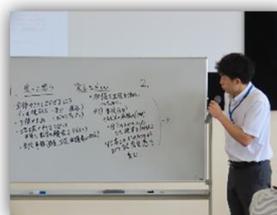
※ユーザーローカル テキストマイニングツール (<https://textmining.userlocal.jp/>) による分析

高知県の教育・学校についての若者の「声」の詳細な内容は、下の二次元バーコードより、ご確認ください。



▶若年・中堅の教職員

高知大学教職大学院のご協力のもと、派遣されている現職教員の方11名、また、教育センター「次世代リーダー育成研修 高知『志』塾」受講の教職員の方34名からご意見をお伺いしました。



高校生や先生方、各関係団体の方々等からいただいた「声」については、県教育委員会としても、しっかりと受け止めて、次期高知県教育振興基本計画に反映をしていきます。なお、現在進めている次期基本計画の策定作業状況は、ホームページに公開している「高知県総合教育会議」や「高知県教育振興基本計画推進会議」の会議資料や協議録でご確認いただけます。



詳しくは、教育政策課のホームページをご覧ください。
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310101/>

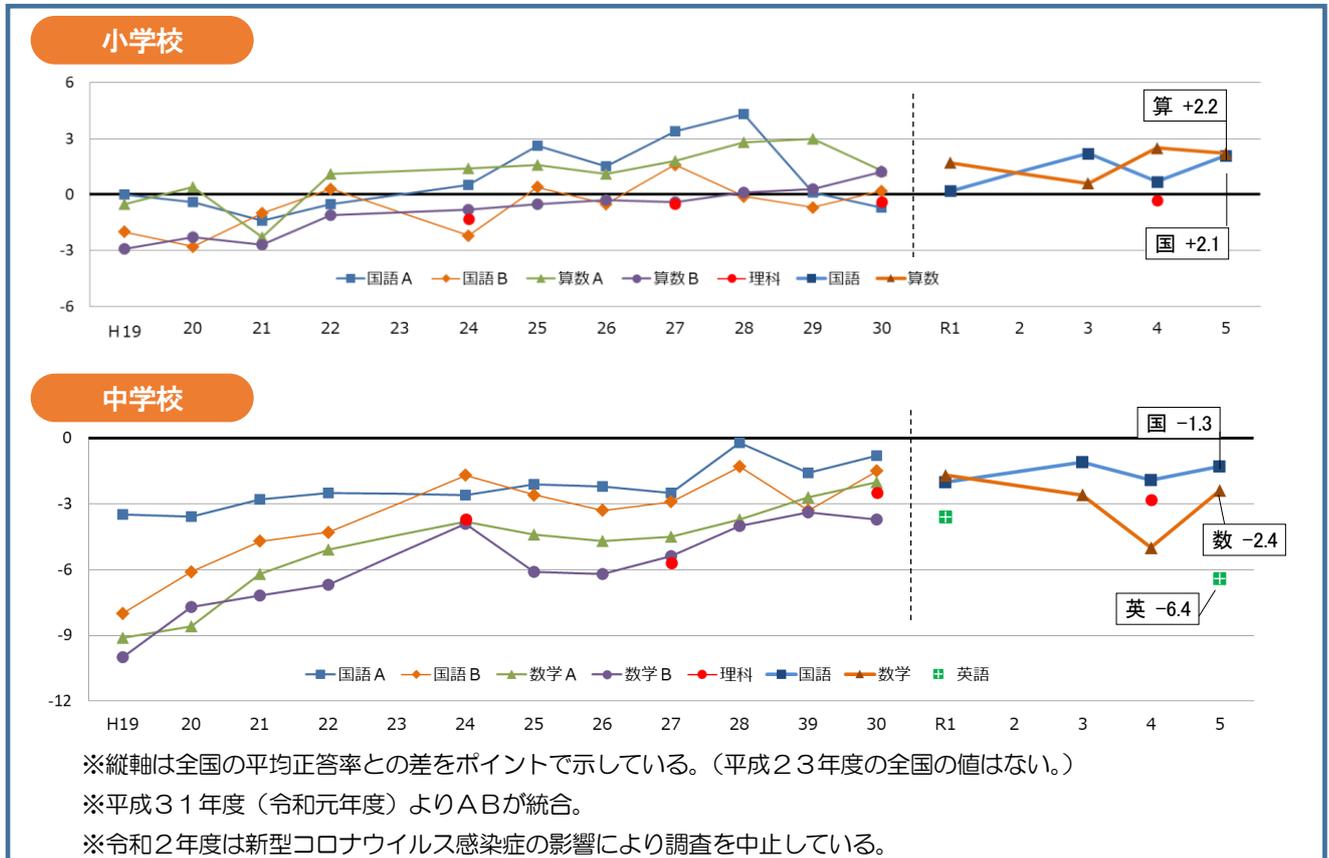


教育政策課 教育企画担当
TEL : 088-821-4731

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について

本年4月18日に実施した全国学力・学習状況調査の結果が7月31日に公表されました。悉皆調査としては13回目、抽出調査を併せると15回目の調査となり、中学校では、4年ぶりに英語の調査も行われました。

● 教科に関する調査の結果（全国平均正答率との差） ●



- ・小学校は、本年度も国語、算数ともに全国平均を超えており、両教科とも全国平均との差が2ポイント以上上回っていました。
- ・中学校は、国語、数学、英語のすべての教科において全国平均を下回る結果となりました。しかし、数学については、昨年度の-5.0ポイントに対し-2.4ポイントと、全国との差を縮めております。一方、4年ぶりに実施された英語は、-6.4ポイントと前回の-3.6ポイントと比較しても全国との差が広がる結果となりました。

● 授業改善による成果 ～ 学習した知識・技能を活用し、意味理解を図ることを重視した学習 ～

【例 中学校 数学】

問題形式	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)	
				高知県	全国正答率との差
短答	7 (1)	1961年～1975年の四分位範囲を求める	四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる	72.9	+7.2

< 分析・考察 >

複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題とあわせて、四分位範囲を求める問題に改善傾向がみられる。このことから、四分位範囲や箱ひげ図を用いて生徒が説明する活動を行い、学んだ知識・技能を活用して意味理解を図る指導改善による成果と考えられる。

- ・中学校数学では、授業づくり講座などで継続的に取り組んできたデータ活用の領域で全国平均正答率を上回る問題がありました。学習指導要領の理解が進んできたことによる成果が表れてきています。

● 学習指導における課題 ～ 目的や相手を意識して、正確に書くこと ～ ●

【例 中学校 英語】

問題形式	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)	
				高知県	全国正答率との差
記述	10	学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる	4.8	-2.6

< 分析・考察 >

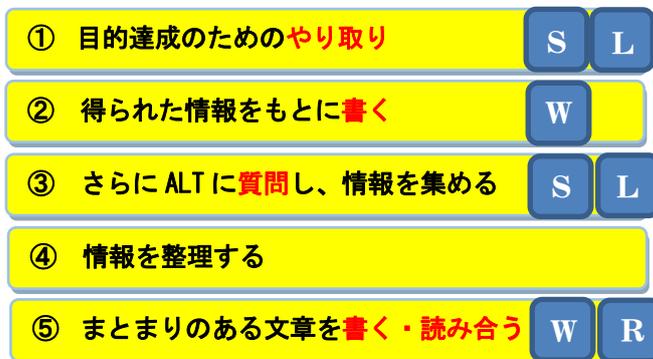
日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章で書く（①学校生活の中から1つ取り上げている②紹介する内容を一貫性のある文章で書く③25語以上の英語で書く）ことが十分にできていない。さらに上記3つの条件を満たしているものの、コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項の誤りがある解答が35.1%であることから、基本的な語や文法事項を理解して正しく文章を書くことに課題があると考えられる。

授業改善のポイント

- ・領域を統合しながらまとまりのある文章を書く
- ・目的・場面・状況に応じて読み手を意識した英文を正確に書く



【例】領域を統合した学習の流れ

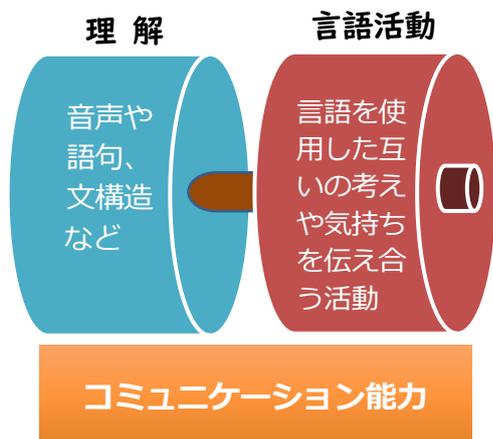


相手に正しく伝わる文章になっているかどうかを、生徒自身が読み直して誤りに気づき、修正を加えながら正確さを高めることが大切です。

● 学習指導における課題 ～ 知識・技能の定着 ～ ●

知識・技能の定着には
時間と練習が必要

「理解」と「言語活動」の両輪で
バランスよく

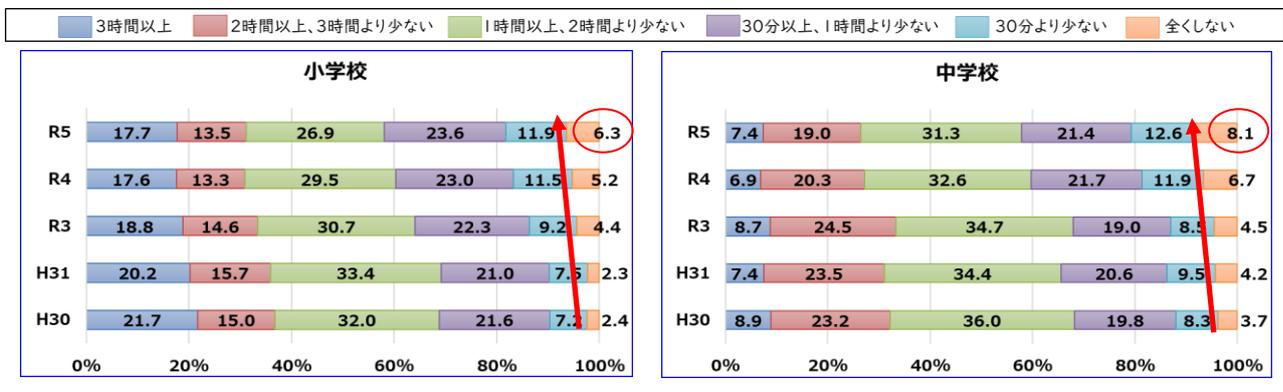


- ・「読む」「書く」などのコミュニケーション能力を育成するためには、音声や語句、文構造などの理解が必要であり、使えるようにするための時間と練習が必要です。
- ・デジタル教科書などを授業等で活用するとともに、単語集「高知これ単」や4技能評価テスト集を朝学習や家庭学習等でも活用しながら、着実に知識・技能の定着を図ってください。
- ・「高知これ単」は、高知家まなびばこからもご覧いただけますので、小学校でも活用可能です。

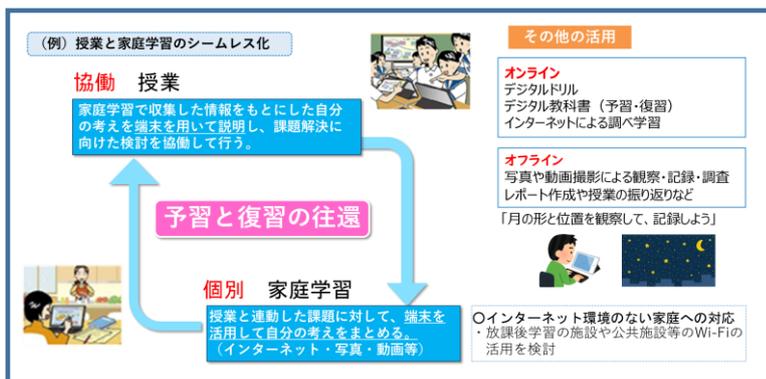
● 家庭学習に関して ●

【児童・生徒質問紙（17）】

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



・昨年度も課題であった児童生徒の家庭学習状況ですが、今年度は、家庭学習を「全くしない」と回答した小学生が6.3%、中学生が8.1%となっており、全く勉強をしないという児童生徒の割合がさらに増えています。土曜日や日曜日など学校が休みの日の勉強についても同様に、「全くしない」と回答した割合が年々増加しており、昨年度より増える結果となりました。



・授業と連動した課題を設定することや、児童生徒が、自身の学習状況に応じて学習計画を立てながら取り組めるようにするなど、家庭で学習した成果が授業の中で実感できるように工夫することで、自ら学び続けられる態度を育むことにつながります。
・また、家庭学習で授業と連動した課題を取り組ませることにより、一層効果的な授業展開が可能となります。

・タブレット端末の活用により、授業と家庭学習のシームレス化を図ることが容易にでき、協働的な学びと個別最適な学びを推進することができます。家庭で調べ学習を行うことで、授業では課題解決に向けた話し合いに重点を置くことができますので、主体的・対話的で深い学びの実現につながるものだと考えています。

教職員の皆様へ

県教育委員会では、今回の調査結果を踏まえて学力向上の取組をさらに進めていきます。各学校の教職員の皆様には、一層の授業改善や教育活動の充実を図っていただくようお願いします。

- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて
教育の内容を重視しつつ、その内容を学ぶことを通して生徒にどのような資質・能力を育成するのか、指導観の転換を図っていきましょう！
- 学びの系統を踏まえた単元づくり
小学校・中学校、そして高等学校へと学びをつなぐことが大切です。小中連携を図りながら、内容の系統性を重視するとともに、見方・考え方の成長を意識して授業を展開していきましょう！
- 学力定着に向けた学校体制の強化
学力調査をもとに、PDCA サイクルを確立し、学校全体で学力を定着させる仕組みを整えましょう！



詳しくは小中学校課ホームページをご覧ください。
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310301/>



小中学校課 教育支援第一担当
TEL：088-821-4735

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）推進事業 令和5年度「地域とともにある学校づくり」研修会を開催しました！

学習指導要領の理念の一つに「社会に開かれた教育課程」の実現が掲げられています。この理念の実現のために、地域でどのような子どもたちを育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを地域住民等と共有し、地域と一体となって子どもを育てる「地域とともにある学校」が必要となります。

そのために、学校と保護者や地域の皆さんが共に知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みである、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）が有効なツールとなります。

県教育委員会では、このコミュニティ・スクールを、令和5年度までに全ての公立小・中・高等・特別支援学校に導入することを目標に掲げ、取組を進めており、各校種とも順調に導入が進んでいます。しかし、そのようななか、「参加者の高齢化」や「熟議とならず、出し合い話や学校からの説明だけとなっている」など、導入後の課題が明らかになってきました。この課題解決に向けて、8月1日に開催した「地域とともにある学校づくり」研修会では、持続可能な学校運営協議会に向けて、「わが町・わが校の学校運営協議会」の現状や成果・課題について、情報交換や協議を行いました。

実践発表

「わが町のコミュニティ・スクールの取組」について

香美市教育委員会



小中一貫の「グランドデザイン」を作成

いの町教育委員会



今年度の取組・方向性の共有

三原村教育委員会



児童生徒と委員の意見交換

〔講話〕文部科学省 CS マイスター 大分県玖珠町教育委員会 教育長 梶原 敏明 氏

「持続可能な学校運営協議会の在り方について」 ～玖珠町のCSの現状と取組から～

子ども・地域コミュニティが主体となる教育

- ★学校と地域を結び付ける地域に根ざした教育内容を持って地域の理解を深める。
- ★子どもや地域住民が、地域のことが好きになり誇りを持てる教育を実施する。
- ★育った地域が懐かしく思えるような教育を展開する。

参画型の教育が必要！

常に新鮮な視点でみんなで共有しましょう



これからは 学校と地域が協働で学校・地域の課題解決と人材育成



「課題解決型のコミュニティ・スクール」

今後の学校運営協議会の在り方は、明確に目的（課題）を持ち、その課題解決のため、有効な手立てを考え実行していく組織を作っていくことが大切です。



詳しくは小中学校課ホームページをご覧ください。
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310301/>



小中学校課 教育支援第二担当
TEL : 088-821-4735

『架け橋プログラム事業』 子供をまんやかにした話し合いを通して学びをつなぐ

子供たちの成長を切れ目なく支える観点から、近年、国は年長児から小学1年生の2年間を「架け橋期」と称して、この時期に保育所・幼稚園等と小学校双方において調和のとれた教育が展開されるための取組を進めています。

幼児期（学びの芽生えの時期） 幼児教育＝「遊び」による総合的な指導	架け橋期 （年長児～小1）	児童期（自覚的な学びへと発展する時期） 小学校教育＝教科等の学習を中心とした指導
--------------------------------------	------------------	---

県教育委員会では、文部科学省のモデル事業を活用し、令和4年度より高知市立春野東小学校区（1校5園）をモデル地域として、先生方が直接顔を合わせ、校区内の子供たちの育ちについて、**実際の子供の姿を基にした話し合い**を積み重ね、「架け橋期のカリキュラム」を作成する取組を高知市とともに進めています。

モデル地域：架け橋期のカリキュラム

幼児教育施設 5歳児

架け橋期では、これまで幼児教育施設と小学校がバラバラに作成していたカリキュラムを1つにするために、**左端の視点を共通し、2年間を通した学びが一目で分かるようなカリキュラム**になるよう作成していきます。

架け橋期のカリキュラム（保育所・幼稚園・認定こども園）（案）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	【主体的にチャレンジし、学びを得るだけでなくできる子どもへ～学びの芽生え・学力向上に向けて～】			
												【A】チャレンジ情報	【B】自尊感情	【C】コミュニケーション	【D】親士業
生活場面に自然に遊びを取り入れ、自分の好きな遊びを繰り返す。 ・それぞれのイメージや思い、得意な遊びの自分なりの遊び方を試みる。 ・クラスで集って遊ぶ楽しさを味わう。 ・友達と遊ぶ楽しさを味わう。 ・季節の移り変わりを感じ、自然に遊ぶ楽しさを味わう。	友達と遊ぶ楽しさを味わう。 ・自分の好きな遊びを繰り返す。 ・友達と遊ぶ楽しさを味わう。 ・季節の移り変わりを感じ、自然に遊ぶ楽しさを味わう。														

小学校 1年生

校区内の幼児教育施設と小学校とで、**子供の姿を基に連携・協働して、カリキュラムを作成し、実践してみましょ**う。
→作成方法は次のページ参照

架け橋期のカリキュラム（小学校）（案）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	【主体的にチャレンジし、学びを得るだけでなくできる子どもへ～学びの芽生え・学力向上に向けて～】			
												【A】チャレンジ情報	【B】自尊感情	【C】コミュニケーション	【D】親士業
生活場面に自然に遊びを取り入れ、自分の好きな遊びを繰り返す。 ・それぞれのイメージや思い、得意な遊びの自分なりの遊び方を試みる。 ・クラスで集って遊ぶ楽しさを味わう。 ・友達と遊ぶ楽しさを味わう。 ・季節の移り変わりを感じ、自然に遊ぶ楽しさを味わう。	友達と遊ぶ楽しさを味わう。 ・自分の好きな遊びを繰り返す。 ・友達と遊ぶ楽しさを味わう。 ・季節の移り変わりを感じ、自然に遊ぶ楽しさを味わう。														

架け橋プログラムの資料を掲載（動画による説明もあります）



県教育委員会では、モデル地域の取組を踏まえ、「架け橋期のカリキュラム」づくりを進めるうえでのポイントを以下のとおり整理し、幼保小が子供をまんなかにして互いの教育内容を話し合い、一緒にカリキュラムをつくっていく取組の県内全域への普及に取り組んでいます。

「架け橋期^(※)のカリキュラム」づくりのポイント

（幼保小が、子供をまんなかにして互いの教育内容を話し合い、一緒にカリキュラムを作っていく取組）

本資料は、R4年度に県教育委員会が文部科学省から受託して実施したモデル事業の実践を踏まえ、取組の進め方の参考としてまとめたものです。
^(※)幼保小が協働して、期待する子供像や育みたい資質・能力、園で展開される活動や小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等を明確化したもの
 (R5.2.27 中央教育審議会初等中等教育分科会「学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について」)

1 市町村における意思決定

- 所管や部局の枠を越えて取り組むことについて、市町村として意思決定する
- 各所管課で担当者を配置する

2 園・校との合意の形成

- 市町村担当者が各園・校に趣旨を説明するなどして、設置者（国公立・私立）、施設類型（保育所・幼稚園・認定こども園等）に関わらず、校区内のすべての施設と「子供をまんなかにして互いの教育内容を率直に話し合う取組」を進めることについて合意を得る

3 市町村による「話し合い」の体制整備

- 市町村が事務局の役割を担う（保幼と小とで所管や部局が異なる場合は双方が役割分担しつつ協力して進める）
- 施設と相談のうえ、校長と園長・担任同士等による会議体の設置やカリキュラム作成に向けた年間計画を作成する

4 「子供をまんなかにして互いの教育内容を話し合う」取組開始

すでに実施している会を利用しましょう。

（1）校区内の「めざす子供像」を決める

- 校区内の子供の「よさ」と「課題」を出し合い、どのような子供を育てたいか「めざす子供像」を決める
 - ・市町村の方針や園・小学校の教育目標、子供の実態、保護者や地域の願いなどを踏まえて決める
 - ・コミュニティスクールの「めざす姿」など既存のものを活用することも可能
- 「めざす子供像」に関連する子供の具体的な姿を出し合う

（2）育みたい力を共有する

- 「めざす子供像」実現のために育みたい資質や能力について、3指針・要領及び小学校学習指導要領の「3つの資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等を手掛かりにしながら明確にして共有する
 - ・0から18歳（12歳）までを見通した学びの連続性にも配慮する

（3）互いの教育内容を話し合う ←ここが重要！

- 教育内容や指導方法を伝え合い、幼児期の学びが小学校の学習にどのようにつながっているか互いに理解を深める
 - ・校内研修・園内研修の相互参加などにより、実際の子供の姿の事例を通して話し合うこと
- 「めざす子供像」に向けて、子供たちに必要な「園での活動や経験」（指導計画等）や「単元構成等」（教育課程等）は何か、共通の視点をもって出し合う

（4）話し合いを踏まえて、「架け橋期(5歳児～小1の2年間)のカリキュラム」を一緒に作る

- これまでの話し合いを踏まえて、事務局が中心となって「架け橋期のカリキュラム」をとりまとめる

モデル地域の「架け橋期のカリキュラム」を活用しつつ、園と学校が協働して、各地域にあった「架け橋期のカリキュラム」を作成することもできます。

「架け橋期のカリキュラム」完成

- ・学校運営協議会
- ・保幼小連絡会
- ・校区内保幼小合同研修
- ・授業研究
- ・園内研修への参加（協議にも参加）
- ・交流活動などの打合わせ実施・振り返りの会
- ・一日入学の打合せ
- ・振り返りの会
- ・引き継ぎ会

5 「架け橋期のカリキュラム」を実践・評価・改善していく取組の定着

- 『子供をまんなかにして互いの教育内容を話し合う』を継続し、「架け橋期のカリキュラム」を実践・評価・改善していく仕組みを定着させる



モデル地域の取組による これまでの成果



モデル地域での子供をまんやかにした保育者・教員の話し合い

子供の姿を基に互いの実践・教育内容を話し合う取組を積み重ねることで、小学校との縦のつながりと園同士の横のつながりができ、相互理解も深まっています。また同じ地域で子供を育てるという視点で各施設の指導計画や実践を見直すきっかけとなっています。

探求することを楽しむ教育・保育の充実へ



保育を見合っでの研修への相互参加や連絡会での子供の姿を基にした話し合い、架け橋期のカリキュラムを活用しての指導計画の見直し等通して、教育・保育のさらなる充実が図られています。

幼児期の学びや経験を生かし、やりたいことが実現できる授業へ



児童のやりたいことの実現が「小さな達成感」の積み重ねとなり、さらなる意欲と自信につながっています。

『保幼小の架け橋プログラムシンポジウム』を開催します

ぜひ、ご参加ください

日時・会場

令和5年12月26日(火) 13:00~16:30
高知県立県民文化ホール グリーンホール

登壇者(予定)

神長 美津子 氏 (大阪総合保育大学 特任教授)
吉田 豊香 氏 (日本生活科・総合的学習教育学会 顧問)
横山 真貴子 氏 (文部科学省初等中等教育局幼児教育課 幼児教育調査官)

内容

- ・高知県の『架け橋プログラム』の取組
- ・パネルディスカッション

高知市立春野東小学校区 校長・園長
コーディネーター

山下 文一 氏 (高知学園短期大学 副学長)



詳しくは 幼保支援課ホームページをご覧ください。
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/311601/>



幼保支援課 幼児教育担当
TEL : 088-821-4881

Topics 5

高知県教育の日「志・とさ学びの日」(11月1日)の推進について

本県では、毎年11月1日を高知県教育の日「志・とさ学びの日」、11月1日から7日までを「とさ学びの週間」と定め、県民の皆さまが教育について知り、考えていただくきっかけづくりの取組を行っています。

市町村教育委員会や各学校等においても、「志・とさ学びの日」に関連させて様々な取組を実施していただいているところですが、さらに、この日の趣旨の浸透を図り、教育的な風土づくりにつなげていくため、引き続き下記の取組へのご協力をよろしくお願い致します。

(1) 関連行事への位置付け等について

主として11月前後(10月から12月)に開催される行事のうち、趣旨に合致するものを高知県教育の日「志・とさ学びの日」関連行事として位置付け、右記のロゴマークを看板や案内文書等に明示して周知いただくようお願いします。

なお、次年度の行事計画の立案にあたって、可能な範囲で11月1日から7日(とさ学びの週間)前後、または10月から12月での実施となるよう、ご検討をお願いします。



(2) 教育関連データの公表について

市町村の広報誌等に、各地域の教育関連のデータ(例:学力調査、生活習慣、体力、読書の状況、子どもの心の状態、学校評価など)を可能な範囲で掲載していただき、住民の皆さまが地域の教育について知り、考える機会を提供していただくようお願いします。



詳しくは教育政策課ホームページをご覧ください。
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310101/>



教育政策課 市町村・学校組織支援担当
TEL : 088-821-4568

第8回高知県特別支援学校技能検定

県では、特別支援学校で学ぶ生徒が、職業科等の授業を通して身につけた技能等を、専門的な視点から評価及び認定する、高知県特別支援学校技能検定を実施しています。

高知大会（8月3日）、幡多大会（7月21日）の2会場で【清掃サービス部門】【接客サービス部門】を開催し、各校において【情報部門】の検定も実施しました。

今年度は、県内12校の特別支援学校から、138名（のべ163名）の生徒の参加がありました。本番では、どの生徒も検定という緊張感の中、それぞれの受検種目に挑み、学校でしっかり学習してきた成果を出し切りました。また、高知大会、幡多大会のそれぞれの会場で、企業の方に向けた見学会を開催し、特別支援学校の生徒が、検定に懸命に取り組んでいる様子を見学していただきました。

9月15日には、高知会館において認定証授与式が行われ、各部門で1級に認定された37名の生徒に、県教育長より認定証が授与されました。



(清掃サービス部門)



(接客サービス部門)



(認定証授与式)



詳しくは、特別支援教育課ホームページをご覧ください。

<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/311001/>



特別支援教育課
TEL : 088-821-4741

子どもたちや保護者の方の「居場所づくり」をしています

心の教育センターでは、集団で過ごすことや人と関わることに不安があったり、学校に行きにくさを感じていたりする子どもたちや、子育てに悩みのある保護者のための居場所づくりをしています。

活動に興味のある子どもや保護者の方がおいでましたら、ぜひご案内ください。



『ことことパーク』 ～子どもたちの心の居場所～

遊びや体を動かす活動などを通して、楽しみながら安心して過ごすことができる場所です。

【開催日】週1回（月曜または土曜）
※日程は心の教育センターHPをご覧ください。

【活動時間】1時間

【場 所】心の教育センター 2階

【対 象】小・中・高校生
・集団で過ごすことや人と関わることに不安がある
・学校に行きにくさを感じている など

【定 員】各回1～4名程度
(活動支援員が同席します)



『ほっと garden』

～子育てに悩みのある保護者のための場～

保護者の方々が交流を通して日々のことを語り合ったり、ほっとしていただいたりするところです。

【開催日】毎月1回 日曜日
午後2時～（1時間程度）

＊10～12月の開催日と交流トークテーマ＊

10月22日「心のスペースの作り方」
11月19日「気持ち、おはなし（放・離）しませんか」
12月24日「うちの子のやる気スイッチはどこ？」
※1月以降はHPにてご確認ください

【場 所】心の教育センター
【対 象】小・中・高校生の保護者
【定 員】各回6名程度（2名以上の参加で開催）

紹介動画



ことことパーク、ほっと garden の申し込み・問い合わせ 088-821-9909



詳しくは、高知県心の教育センターホームページをご覧ください。

<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/311902/>



高知県心の教育センター
TEL : 088-821-9909

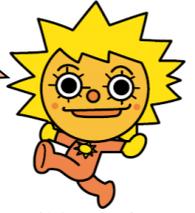
高知家の早寝早起き朝ごはんフォーラム2023

県教育委員会では、12月に「高知家の早寝早起き朝ごはんフォーラム2023」をイオンモール高知にて行います。

このフォーラムは「食育」を中心に参加者（主に保護者）の朝食や生活習慣に対する興味関心を高め、子どもたちの基本的な生活習慣の維持・向上・定着を目的に開催するイベントです。

ぜひ、皆さまの来場をお待ちしております。

参加料
無料だよ！



©やなせたかし/やなせスタジオ

日時

令和5年12月3日(日)
10:00~15:00

会場

イオンモール高知
1F南コート

午前の部

・早寝早起き朝ごはんオープニングダンス

体験型コーナー

- ・野菜クイズ挑戦
- ・バッジ作り
(早寝早起き朝ごはんキャラクター)
- ・お箸づくり教室
- ・野菜摂取量の測定
- ・朝食メニューの啓発

ぼくたちと
写真がとれるかも！



午後の部

アスリートトークショー

杉谷 拳士
(YouTuber、タレント、元プロ野球選手)
高平 慎士
(北京オリンピック4×100mリレー
銀メダリスト)



朝ごはんは何
を食べていた
のかな？

どんな子
もだったの
かな？



みんな来てね～！



内容は、9月時点での計画案です。変更になることもあります。
詳しくは11月上旬以降に、生涯学習課ホームページをご覧ください。
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310401/>

問い
合わせ

生涯学習課 松下・吉岡
TEL: 088-821-4911

「高知の教育の進む道～今、取り組むべきこと～」講演会を開催しました

令和5年8月30日(水)に、高知県民文化ホール・オレンジホールにおいて、「高知の教育の進む道～今、取り組むべきこと～」講演会を開催し、高校生や一般の県民の皆さまを含む、917名の方に参加いただきました。

特別ゲストとして、東京大学名誉教授の養老孟司氏、株式会社日本総合研究所主席研究員の藻谷浩介氏をお迎えし、「世界で活躍するために本当に求められる力とは何か」について、登壇した高校生とのディスカッションが行われました。

お二人のお話を聞き、高校生たちは、異なる文化や環境での学ぶ姿勢や経験の重要性、自己実現に向けて行動を主体的に起こすことが、学びや考えを具体的な経験に変えるステップになることを感じ、多くの学びを得ることができました。

【高校生の感想より】

「話は難しかったけどためになる話が聞けて良かった」／「現実的で良かった。地元をもっと大切にしたいと思ったし、けど小さい世界にとどまるのではなく経験として色々な場所に行ってみるのもありだと思った。」／「他人の価値観に触れることで新しい考え方をすることが出来た。」／「人から聞いたことを鵜呑みにするのではなく自分で調べる努力をすることを学んだ。」／「養老先生も藻谷先生も共通して仰っていた、とにかくやってみるということが大切だと感じた。何かを始めることにキッカケなんて、理由なんて必要ない。ただしてみたいという好奇心に従うことが成功への1歩だと思う。」／「内容も面白く、引き込まれるものがあり、楽しい時間を過ごすことができた。又、日常生活においても、学問を学ぶにおいても重要な考え方等を学ぶ、再認識をすることが出来たので、良い講演だと思った。」



◀養老孟司氏(中央左)、藻谷浩介氏(中央右)と登壇した高校生



詳しくは高等学校振興課ホームページをご覧ください。
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/311801/>

問い
合わせ

高等学校振興課振興担当
TEL: 088-821-4727

「全国高等学校ビブリオバトル 2023 高知県大会」参加者募集！！

「全国高等学校ビブリオバトル 2023 決勝大会」への出場権をかけて、高知県内の高校生を対象にした高知県大会をオーテピア高知図書館で開催します。ビブリオバトルは、お気に入りの本を持ち寄り、その本の魅力を紹介する知的書評合戦です。優勝者は令和6年1月28日(日)に東京都で開催予定の決勝大会に招待されます。

ビブリオバトルに参加することで本への理解が深まり、スピーチ力が磨かれます。読んでみたいと思える本と出会えるかもしれません。

ビブリオバトル高知県大会ルール概要

※詳細は、ウェブ・サイトにて参加要項をご確認ください。

- ① 発表者が読んで面白かった本を持って集まる。紹介する本は雑誌・漫画以外
- ② 順番に一人5分間で本を紹介する。
- ③ それぞれの発表の後、発表者・観戦者全員でその発表に関するディスカッションを2分間行う。
- ④ 全員の発表が終了した後に、「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を発表者・観戦者全員で行い、最多票を集めたものを「チャンプ本」とする。



申込方法

発表者

・メール(teens@library.kochi.jp)

【発表者の申込期間】

令和5年10月3日(火)～11月9日(木)

※定員の15名に達し次第、受付を締め切ります。

観戦者(一般の方もお申込できます)

・メール(teens@library.kochi.jp)

・インターネット(高知県電子申請サービス)

・電話 088-823-4946(代表番号)

【申込期間】

令和5年10月3日(火)～11月23日(木・祝)

※定員の100名に達し次第、受付を締め切ります。

※当日受付は13:00までです。

全国高等学校ビブリオバトル 2023 高知県大会

【開催日】 令和5年11月23日(木・祝) 13:00～16:30(受付 12:30～)

【場 所】 オーテピア4階 ホール・研修室

【対 象】 発表者……高知県内の高等学校に在籍している者(高知工業高等専門学校に在籍の者は高校3年次相当まで)

観戦者……どなたでも

【定 員】 発表者……15名

観戦者……100名

【主 催】 オーテピア高知図書館(高知県立図書館・高知市立市民図書館)

【共 催】 活字文化推進会議

【後 援】 読売新聞社



昨年度の高知県大会の様子



詳しくはオーテピア高知図書館ウェブ・サイトをご覧ください。

<https://otepia.kochi.jp/library/event.cgi?id=20230721104701f9fklN>



オーテピア高知図書館

TEL : 088-823-4946

【お知らせ】 ■ 高知県高校生津波サミットについて

東日本大震災当時、宮城県東松島市立大曲小学校5年生で被災経験をされ、中学生から語り部活動をされている雁部 那由多(がんべ なゆた)さんの講演、実践校7校の実践発表、参加校のグループワーク等を実施します。

日時：令和5年11月11日(土)

場所：県立ふくし交流プラザ2階多目的ホール (Zoomによるオンライン方式での参加も可)

○問合せ先：学校安全対策課 (Tel : 088-821-4533)

<発行者> 高知県教育委員会事務局教育政策課

TEL : 088-821-4731 FAX : 088-821-4558 E-mail : 310101@ken.pref.kochi.lg.jp

高知県教育委員会 WEB サイト : <https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310000/>

※本広報紙への感想やご要望がございましたら、発行者までお寄せください。



「とさまなチャンネル」
YouTubeチャンネル



「学んでみた」シリーズ、
遠隔教育を投稿しました!